

令和2年度 帯広市青少年問題協議会 委員・幹事合同会議 議事録

日 時：令和3年3月5日(金) 書面開催

- 議 事：議事1 令和元年度 おびひろこども未来プランの進捗状況について
議事2 令和2年度 青少年健全育成に係る取り組みについて
議事3 青少年センターにおける街頭巡回指導のあり方について

会議資料：資料1 おびひろこども未来プラン 令和元年度進捗状況報告書

意見内容：議事1～3 及び今後の協議会活動に関すること

委員・幹事からの意見など	帯広市の考え方
<p>【おびひろこども未来プランの進捗状況】</p> <p>子どもの居場所づくりの実施校が増えていることを良としているが、実施回数の減とはいえ参加人数が減少し続けていることが気になるところである。ボランティアスタッフの高齢化、あるいは特定の方が様々なボランティアに名を連ねているなど、担い手不足は今後の当該目標達成につながる根本的な問題だと思われる。自治体によっては行政職員も積極的に地域ボランティアに参加しているが、住民に声をかけるのと同様に行政職員への積極的参加も呼び掛けても良いのではないかと思う。</p>	<p>ボランティア団体や NPO 法人への依頼を通して、地域のつながりによる実施体制の確立を図っておりますが、魅力ある充実した体験活動には多彩な人材が必要となり、行政職員の活用も期待される場所です。ご意見も参考にしながら、担い手の確保・育成に努め、継続的な事業実施に取り組んでいきます。</p>
<p>【おびひろこども未来プランの進捗状況】</p> <p>新型コロナウイルス感染症が収まらない中、工夫されながら放課後子ども広場が26校中、23校で実施されたことに対し、関係者の皆様のご努力に感謝を申し上げます。この一年間は今まで当たり前になっていたことができないという我慢と忍耐の年であったと思う。その中で実施されたことは子どもたちのストレス解消に大きく貢献されたことと思う。実施されなかった学校においても、熟慮に熟慮を重ねての決断であり、それを尊重したい。(感想)</p>	

委員・幹事からの意見など	帯広市の考え方
<p>【青少年健全育成の取り組み】</p> <p>参加人数の減少率を見ると、森の少年隊を終了した年の 15%減と同様の減少率である。どのような事業であれば参加しやすいのか、事業全体を子ども目線で考え直す必要があるのではないか。</p>	<p>インターネット利用など、子どもたちは幅広い分野に興味関心を抱き、様々な世界とつながりを持つとともに、学習や部活動をはじめ、友だちとの交遊や家族とのイベントなど、忙しい日常を過ごしていると考えます。青少年リーダー養成事業は青少年育成団体との連携により、子どもたちの状況や特性に応じた指導方法の工夫などに取り組んでおりますが、ご意見がありました参加しやすい事業のあり方についても留意してまいります。</p>
<p>【青少年センターの街頭巡回指導のあり方】</p> <p>指導協力員の協力もあって、目に見える非行は減少しているものと思われる。ただ、課題に書かれた問題行動の早期発見をどのように行うかは難しい課題であると考えている。</p>	<p>非行関係情報を有する帯広警察署をはじめ、少年補導機関との情報共有、学校訪問を通じた状況掌握などにより、非行につながる、あるいは兆候となる手がかりの把握に努めます。</p>
<p>【青少年センターの街頭巡回指導のあり方】</p> <p>ひと昔の非行と呼ばれるような行動をする子どもたちは減少していると思われ、問題は現場(外)よりも家(中)で起きている印象を受ける。</p> <p>若い世代を増員するなどして、私たちの世代では想像できない事柄や問題、それに対する方法を模索する時に来ているかもしれないと感じる。</p>	<p>喫煙・飲酒など青少年問題を外側から把握できた時代から、ネットいじめなど SNS 利用や人間心理・感情といった目が届かない領域に問題が広がりがつつある状況を感じ取っています。新たな課題認識のため、若年世代の指導協力員からも情報を得るなど、水面下で起きている青少年事情の把握方法について検討を重ねていきます。</p>
<p>【コロナ禍が青少年健全育成に及ぼす影響】</p> <p>学校行事をはじめとするイベントの多くが中止となり、学校では学年毎にしか団体行動ができないという一年であった。どの場面においても先輩や後輩との接し方など、希薄になってしまうため、今後の活動にどのような影響が出るのか懸念している。長く家にいることによる親を含む大人のストレスもあり、それが子どもなど弱いものに向かうことも心配する。</p>	<p>コロナ禍の学校休業により、子どもたちの中には学校という居場所を失い、学習面のほか、友だちとの交流やつながりの場を持ち得なかったとの状況も耳にすることがあります。家庭で家族と過ごす生活時間の増加に伴うストレスにより、家族間の不満や暴力行為、加えて収入減による家計圧迫などによる経済的問題も発生し、子どもた</p>

委員・幹事からの意見など	帯広市の考え方
	<p>ちに及ぼす影響が懸念されています。子どもの戸惑いや葛藤の声を聴くが場が必要であり、ヤングテレホン相談などの利用状況などにも留意していきます。</p>
<p>【今後の青少年問題協議会活動のあり方】 こんな時は家から、大人から逃げてもよいのだという事例を子どもたちに提示するような活動はいかがか。どんな親も子どもにとっては親で、その人しか知らないわけで、それが当たり前と思っているかもしれない。虐待されていても気づかない、ご飯を食べられないことも普通、そんな子どもがまだいる気がしてならない。</p>	<p>虐待を受けたり食事に取りつけない子どもに加え、近年はヤングケアラーなども社会問題化されています。ご意見として参考にさせていただきます。</p>
<p>【今後の青少年問題協議会活動のあり方】 子どもの問題はほぼ大人の問題であり、行政でもどちらも一緒にフォローしていけることを期待したい。(要望)</p>	
<p>【今後の青少年問題協議会活動のあり方】 『令和元年の子供・若者白書』では従来の青少年白書とは異なり、明確に課題を上げ、成長のための社会環境の整備、困難を有する子ども・若者やその家族の支援などを項目として取り上げている。こども未来プランは令和元年度までで、すでに新しい計画が策定されているものと思うが、コロナ禍でより表面に出にくくなった青少年の健全育成について検討項目の立て方自体を考え直しても良いのかと思う。</p>	<p>第二期おびひろこども未来プランにおいても、子どもの安全な環境の確保や子どもの体験活動の推進、青少年の社会参加の支援、青少年の健全育成活動を基本目標に掲げております。教育関係機関がコロナ禍のもたらす影響についてアンケート調査等を進めており、それらの状況も考慮しながら、対応を図っていきます</p>
<p>【全般を通じて】 おびひろこども未来プラン報告書が10月に作成されており、できれば11月には開催ができたらよかった。</p>	<p>各事業報告書の取りまとめ状況などを考慮しながら、適時な開催を心がけていきます。</p>